

卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程編成・実施の方針(カリキュラム・ポリシー)

ディプロマ・ポリシー		カリキュラム・ポリシー（編成方針）	
共通科目（全学統一）	A-1	幅広い学問領域の基本的な概念や理論を修得し、教養としての知識・技能を身に付けることで、社会事象を多面的に理解することができる。	主に人文科学、社会科学および自然科学の各分野を中心とした、学問の基本的な概念や理論を修得するための科目を、選択必修として1年次から配置する。
	B-1	学びや研究の基盤となる思考力・判断力・表現力等を獲得し、幅広い領域に活用することができる。	リテラシー領域を設け、学びと研究の基盤となる思考力・判断力・表現力を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。
	C-1	修得した資質・能力を主体的に活用し、多様な人々と協働しながら実際の課題に取り組み、創造的に課題解決に向かうことができる。	実習、演習、インターンシップ、ボランティアなどを中心とした、創造的に思考する力や他者と協働する力を修得するための基礎から発展への科目を、1年次から段階的に配置する。
	D-1	社会的課題やそれに対する学習・研究を通して、我々の生き方の指針を深く考え、自律的に真理を探究し続けることができる。	ライフデザイン領域を設け、生き方の指針および学び続ける態度を修得するための科目を、必修および選択必修として1年次および2年次を中心に配置する。
専攻科目	A-2	外国語による言語活動に関する能力を習得しているとともに、個別領域のみならず複合領域にわたって積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けている。	外国語による「聞く」「話す」「読む」「書く」能力の習得及び4つの領域の言語活動を有機的に関連付けつつ総合的な言語運用能力を身に付けるための科目を配置する。
	A-3	外国語の仕組みと言葉の意味や働きなどの語学的な知識と実践的な運用能力を習得するとともに文学的教養を培い、言語の背景にある多様な文化や社会に関する広い知識を身に付けている。	外国語が持つ言語の特徴等を理論的に理解するとともに、英語圏やフランス語圏の事情や文学・文化・社会に関する知識の習得と異なる文化に対する理解を深めるための科目を配置する。
	B-2	様々なジャンルや話題に関する事実や意見などを多様な観点から考察し、論理の展開や表現の方法を工夫しながら、目的に応じて議論を行う言語運用能力を身に付けている。	国際社会に関する多様な情報を収集し複眼的に分析し、適切に判断して、自らの考えや意見などを形成して発信することができる能力を身に付けるための科目を配置する。
	C-2	外国語学分野に関する研究活動に必要な基礎的な研究方法及び外国語学に関する専門的知識や研究方法を活用し、自ら課題を解決することのできる創造性を身に付けている。	外国語に関する文献講読や資料分析及び調査方法や分析手法などの能力の習得とともに、自らが立てた課題にそれらを適用し解決する能力を身に付けるための科目を配置する。
	D-2	外国語学を学ぶ目的及び外国語学を構成する学問体系と基本的な学び方について理解しているとともに、生涯にわたり知識を更新し、自らの資質を向上させる学習態度を身に付けている。	教育研究の対象とする学問分野の理解のもと、大学での学習を遂行するための基本的知識と技術及び卒業後も自律・自立して学習できる生涯学習力を身に付けるための科目を配置する。

【ディプロマ・ポリシー及びカリキュラム・ポリシーの各カテゴリー】

A:知識・技能
B:思考力・判断力・表現力等
C:総合的な学修経験・創造性
D:態度・志向性

カリキュラム・ポリシー(実施方針)

①外国語学分野の教育課程の編成をふまえ配置された各授業の内容に応じ、知識の理解を目的とする教育内容について、講義形式を中心とした授業形態を採るとともに、態度・志向性及び技能の習得を目的とする教育内容については、演習形式による授業形態を採ることとし、理論的な知識や技能を実務に応用する能力を身に付けることを目的とする教育内容については、実習形式や実践形式を交えた授業形態を採る。

②学生の能動的学修への参加を促すために、教室内でのグループ・ディスカッション、ディベート、グループワーク等をはじめとする教授方法を用いる。

1. 求める学生像

外国語学科は、卒業認定・学位授与の方針(ディプロマ・ポリシー)及び教育課程の編成・実施方針(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるために必要な、次に掲げる知識・技能や能力、目的意識・意欲を備えた者を求める。

〔知識・技能〕

- ① 高等学校で履修する主要教科・科目の内容を幅広く理解し、高等学校卒業相当の知識、特に外国語の運用能力を有する者
- ② 本学での学びの基礎となる、外国および自国の文化・社会に関する知識を有する者

〔思考力・判断力・表現力等の能力〕

- ① 知識・技能を活用し、課題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の能力を有する者
- ② 日本語や英語で自分の考えを口頭や文章により適切に表現し、他者に対して的確に伝えることができる者

〔目的意識・意欲〕

- ① 外国語や外国の文化・社会、国際社会に対する強い興味と関心を持ち、学部教育に対する高い学習意欲を有している者
- ② 多様な言語・文化・価値観を有する人々と協働して主体的に学ぶ姿勢を有する者

2. 選抜方法

外国語学科では、前項で述べた資質を有する者を、以下の方法によって選抜する。

- (1) 一般選抜(一般入試、英語4技能利用型一般入試、大学入学共通テスト利用入試(前期・後期)、一般・共通テスト併用型入試)
高等学校での学修の達成度をみるとともに、大学での学修に必要な基礎学力を有しているかを評価する。また、一般入試では英語の配点比率を高くし、外国語学科において専門知識を習得するための英語力を有しているかどうかも含めて判定する。
- (2) 総合型選抜(総合型入試)
総合型入試では、「学びと探究型」と「活動実績型」に分けて入学者を選抜する。
「学びと探究型」では、調査書および出願者作成の書類(学修計画書、志望理由書等)による書類選考を行ったうえで、課題図書にかんする論述試験および提出書類にもとづく面接を行い、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性、本学科への適合性を、書類選考を含めて総合的に判定する。
「活動実績型」では、調査書および出願者作成の書類(学修計画書、活動報告書、志望理由書等)により書類選考を行ったうえで、講義にもとづく論述試験および活動報告書などにもとづく学修計画にかんするプレゼンテーションとグループ・ディスカッションを行い、受験者の知識・技能、思考力・判断力・表現力、主体性・協調性を書類選考を含めて総合的に判定する。
- (3) 学校推薦型選抜(指定校推薦入試、併設高校からの推薦入試)
学校推薦型選抜では、高等学校において一定の基準の学力を修得したと認められる生徒の推薦を求める。入試では受験者に小論文と面接を課しており、出願時の志望理由書を含めて、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。
- (4) その他の選抜(外国人入試、国際入試(帰国生・IB生))
多様な学びの背景を持つ学生を受け入れるために、外国人入試、国際入試(帰国生・IB生)を実施する。一定の語学力を有することを確認したうえで、日本語による小論文と面接を課すことにより、受験者の目的意識・意欲、理解力・思考力・表現力を総合的に評価して判定する。